

令和6年度 入学式 校長告辞

今日の佳き日に、令和6年度の石川工業高等専門学校入学式を挙行できますことは、私ども教職員および在校生一同の大きな慶びであり、ご臨席の皆様方に対し、心から御礼申し上げます。

能登半島を震源地とした大きな地震が発生して3か月が経ちました。改めて、亡くなられた方々に哀悼の意を表し、被災されたすべての方々的心よりお見舞いを申し上げます。被害を受けられた皆様のご回復と被災地の1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げますとともに、本日、皆様方と入学式を執り行うことができることに感謝いたします。

本年度は、第1学年に入学する学生212名、第3学年に編入学する留学生3名、さらに専攻科に入学する学生28名、合わせて243名の新入学生を迎えることになりました。

新しく入学あるいは進学された皆さん。ご入学、おめでとう。石川高専は、皆さんを心から歓迎いたします。専攻科に進学された方々を別にすれば、多くの皆さんにとって、高専における生活は未知のものでしょうか。新しい生活に対する大きな夢と期待、そして少しの不安を胸に、そこに座っておられることと思います。石川高専は、昭和40年に国立の高専として石川県の中心に位置する津幡町の東、高台の自然豊かなこの地に設立されて以来、その卒業生は9000人を超える伝統ある高等専門学校であります。それらの先輩方は科学技術創造立国としての我が国の産業技術と社会を支え、その発展の一翼を担ってまいりました。

高専は本科の5年間で、高等学校から大学学部の7年間に匹敵する教育を行いますが、そのカリキュラムは社会の信用を勝ち得た数多の卒業生の教育実践に裏打ちされたものです。教職員が皆さんをしっかりと支え導くことはもちろんですが、同じ日に入学を迎えた多くの仲間が助け合い、切磋琢磨してくれます。上級生たちも学業や課外活動を通じて模範となったり助けとなったりします。地元石川県の企業や自治体などの多くの方々も、皆さんの志と未来に期待して、実践や研究の場や機会、あるいは貴重な資金の提供などで学びを支えてくれます。また国の政策レベルでも、皆さんがこれからの社会変革をリードする人材になることを期待して、様々な支援策が講じられます。

本校に入学するということは、技術者として社会を担うという皆さんの未来に大きな期待が寄せられ、その実現を目指す皆さんの努力には様々な方々からの多大な支えや助けがある、そういう環境を得るということです。専攻科入学生の皆さんならその素晴らしさを実感し、その活かし方も十分に考えておられることでしょう。

さて、ここで皆さんにお願いしておきたいことがあります。実践的創造的な技術者への期待というのは、地元石川県そして我が国の人々の期待です。少子高齢化の進展など、社会が目まぐるしく変化する現状において、技術で社会の期待に応えるということの意味もますます複雑なものとなっています。例えばSDGsとひとまとめに呼ばれる諸課題もその内容は多岐にわたり、状況に応じて様々な次元の対応が必要です。

皆さんには、これからの時代の技術者として、専門とする領域だけでなく他の技術領域についても知見を深めるとともに、社会制度の意義なども理解し、人の心や願いにも想いを致して、本当に喜ばれる技術を創造し社会実装していく技術者になってほしいのです。

そのために、本校で技術者としての専門知識・技術を学ぶとともに、課外活動なども含め様々な活動、体験、試練を通じて、人としての感性を育て、他者の心や願いを理解できるように、心がけてください。

さて、我が国の高専の制度は、社会を担う技術者養成の仕組みとして諸外国からも関心を寄せられていますが、今年もマレーシア、タイ、カンボジアから計3人が編入生として留学してくれました。言葉も環境も違う日本で勉強することは大変なことだと思いますが、早く多くの友人を作り津幡の生活にもなじんで、思い切り日本の生活を楽しんでください。将来は、皆さんの国と日本の技術交流、文化交流の懸け橋となってくれることを希望いたします。

専攻科に進学した28名の皆さん、これからの2年間、本科で培った基礎の上に、より深い専門性と複数の専門領域にまたがる複合的視野を学び、将来、人間性豊かなイノベーションを実現していく総合技術者として活躍できるよう、さらに自らを鍛えてください。

最後になりましたが、新しく入学または進学された皆さんは、どうか本日の感激を忘れず、一人一人の夢の実現のため、自分の可能性を信じて、志を高く持って、高専生活を過ごしていただきたいと思います。また、ご家族関係者の皆様方に改めてお祝いを申し上げますとともに、家庭と学校の密接な連絡を保ち、本校への積極的なご支援とご助言をお願い申し上げます。重ねて、本日入学される皆さんをお祝いし、校長告辞といたします。

令和6年4月5日

石川工業高等専門学校長

富田 大志